



習得した技を一番最初に見せると、「すごいね」と驚き、心配しながらも見守ってくれるご両親に感謝している陽くん



小さな子ども達に見てもらおうと上達する 見てくれる人とのコミュニケーションを大切に これからはジャグリングを通じて成長したい

吉田 陽くん(ジャグラー・中学3年生)

皆さんはジャグリングを存じますか。いろいろな物を技と道具で操る曲芸です。人通りの多い場所やテレビ番組で、中国独染を紐で操ったり、複数の箱やボール、こん棒でお手玉をしている人を見たことがあるのではないのでしょうか。日本ではまだあまり知られていませんが、ジャグリングは根気と集中力が必要で、激しい動きによって身体能力と精神力も鍛えられることから、教育に採り入れている国もあるほど奥が深いのです。

そのジャグリングの練習を通じて第二児童館利用者の人気者になっている若者がいます。狭山台にお住まいの中学3年生、吉田陽くんです。今年6月、たまたま遊びに行った都内の公園で以前から興味があったジャグリングを目にし、「かっこいい。やってみたい」という一心で、一人、近所の公園で練習を始めました。ところが人通りが少なかったため、練習に不可欠な「観客の反応」が得られません。そこで小さいころ遊びに行っていた児童館を思い出したのです。「中学生に個人的に使わせてくれるかな。まだ未熟なのに人に見せられるだろうか」と児童館へ相談しに行くまでとても迷ったそうです。それでもジャグリングを始めるときは「自分で決めて行なうだけだ」と、自分で決めて行動したんだから、今回もやってみよう」と決心し、自分の思いを伝えます。児童館側は危険がないように練習し、子ども達にも見せてあげることが出来るならばと練習を許可しました。それから夏休み返上で特訓を開始。汗だくで懸命



に練習する中学生の話は口コミで伝わり、8月には陽くんが練習に来るのを楽しみに待っている親子も現れたのです。こんなふうには、児童館で利用者や職員など、多くの人とふれあひながら練習している陽くん、上達するには大人よりも小さな子どもに見てもらった方が勉強になると言います。それは子ども達が素直だから、すごいと思えば驚きつもらないと反応しない。言葉や雰囲気でも通ってくれる大人と違い、子ども達はとてもシビアです。反面、風船で動物などを作ると大喜びで持つて帰るのがうれしいそうです。そして練習の成果で、11月3日には児童館のお祭で単独ジャグリングショーを行うほど腕前も上がりました。

陽くんはジャグリングで培った集中力や観客とのコミュニケーションが自分が成長させてくれていると感じるそうです。将来は大きな舞台で披露することを夢見ながら、児童館で大勢の親子に見守られ、今日も練習に励んでいます。

ものづくり 狭山人づくり の産業



今年は里芋が豊作で農業まつりでもたくさん販売されます。ぜひ食べてみてください

楽しみながら、自分の家だけでなく狭山の農業全体を真剣に考え、それぞれが努力しています...そう話すのは、野菜農家の室岡英紀さん、狭山農業青年会議所の代表です。狭山農業青年会議所とは27歳以上の若手農業後継者の組織で、現在は野菜・茶・花・果樹などの農業を支える41名が市内全域から集まり、講演会や親睦会、委員会の事業を通じて連携をとりながら活動しています。現在は、11月23日にJAいるま野狭山事業部で開催される農業まつりを盛り上げるために、焼きそばとチョコバナナの出店準備を進めています。お茶や野菜をはじめ狭山の農作物は市場で評価が高く、その素晴らしさをもっと市民の皆さんに分かってもらいたい...まずは農業まつりでたくさんの人にそれを伝えよう、という熱い思いを持ちながら、地元に着した活動で狭山の農業を盛り上げている、明るく元気な皆さんです。
(前列右端・室岡英紀さんほか狭山農業青年会議所の皆さん)

くらしの自治体

東三ツ木自治会

新狭山駅の南側に位置する東三ツ木自治会は、1千650世帯で組織されています。班長会と環境衛生委員会から毎月報告が配布され、家庭への連絡事項が回覧で周知されていますが、これは過去の役員が改良を重ねた結果、今日まで続いている仕組みです。また、資源回収などリサイクル事業が早くから提唱されている地域でもあります。夏祭り、敬老会、餅つき大会など活発に活動していますが、なかでも今年度の体育祭は過去最高得点で優勝。志気が高まり、団結力抜群の自治会です。



団結力で優勝を勝ち取った体育祭

Hello ハロー 仲間たち

Vol 267

ママさんバレーボールチーム
「アーミーズ」



アーミーズは18年以上の歴史あるチームです。メンバーは監督・コーチを含めて19名で、市内全域から集まります。水曜日(西中学校体育館)と土曜日(狭山台南小学校体育館)が練習日で、多くのメンバーが10年以上続けているほど熱心に活動しています。しかも熱心なだけでなく、経験者が初心者に教えるなど、練習風景はとても和気あいあいとしぎやかです。家族も協力的ですし、子ども連れするときもみんな面で面倒を見ながら練習するので、自然に子ども同士が仲良くなり、大きくなってからも練習についてきて一緒に輪に加わる子もいます。

よく、バレーボールって痛そうですねと言われる。確かに、育兒などで長い間練習を休んでいた後は腕が真っ青になることもあります。が、復帰後しばらく練習をしているうちに痛くなくなります。そして、メンバーみんなが、その痛みをものもしないくらいの魅力が、バレーボールとこのチームにあると思っています。

問合せ

浜崎真紀子さんへ

☎954 7303